



多木化学グループ 長期ビジョン および中期経営計画

Taki Chemical Vision2050



目次



I 「長期ビジョン2050」

1. 多木化学グループの理念とミッション
2. 多木化学グループのありたい姿
3. 戦略イメージ

II 「中期経営計画2028」

1. 概要
2. 基本方針
3. 「中期経営計画2028」でめざす姿



I 「長期ビジョン2050」

Taki Chemical Vision2050 

I 「長期ビジョン2050」

1. 多木化学グループの理念とミッション

〈多木化学グループ理念〉

多木化学グループは創業者精神に則り自然と環境を守り
確かな価値の創造を通じて豊かな社会の実現に貢献します

〈多木化学グループミッション〉

伝統と革新～100年先も選ばれる企業に

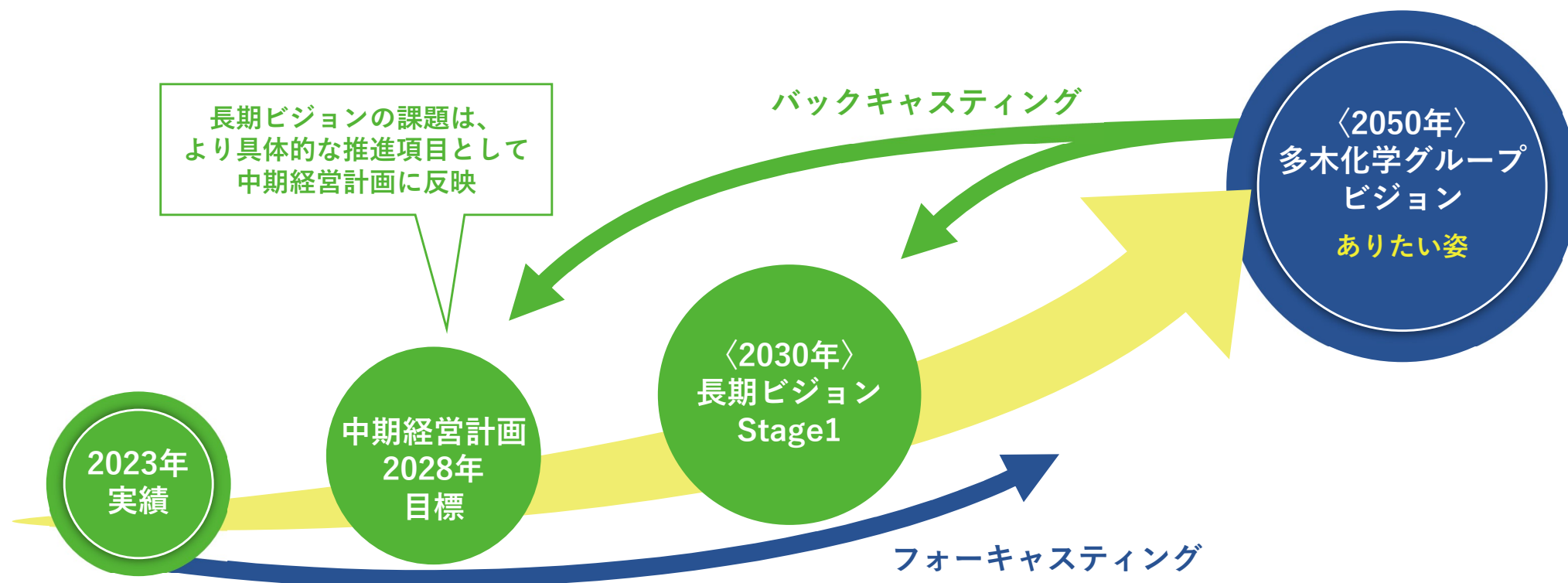
多木化学グループは、従業員とその家族の物心両面の幸福を追求するとともに、伝統と歴史に裏打ちされた既存事業の深化と革新的な新規事業の開拓により、持続可能な企業として社会へ貢献し続けます。

I 「長期ビジョン2050」

2. 多木化学グループのありたい姿

環境、社会、地域に配慮した持続可能な事業戦略の実践

未来予測が困難なVUCA時代、私たち多木化学グループは、2050年のありたい姿を明確化することによって、強みを活かしながら変わりゆく環境に適合してゆきます。環境、社会、地域を戦略の軸として、アグリ、化学品、不動産の3本の柱をさらに深化させるとともに、独創的、革新的な新事業・新商品で、持続可能な企業経営をめざします。



I 「長期ビジョン2050」

3. 戦略イメージ

【アグリ事業】



■ありたい姿

“Try Agriculture ”

■実現したいこと

1. 国内市場の趨勢、カーボンニュートラルを考慮した生産体制の合理化、および肥料生産・栽培ノウハウを生かした海外市場への参入
2. 農産物生産事業への進出と高付加価値作物のブランディング、新たな販売ソリューションの創出

【化学品事業】



■ありたい姿

環境に配慮した化学素材で循環型社会を実現

■実現したいこと

1. 環境配慮型の水処理薬剤の浸透と海外市場への参入
2. 成長マトリクスの展開による機能性材料の事業拡大

I 「長期ビジョン2050」

3. 戦略イメージ

【不動産事業】



■ありたい姿

自社開発エリアのコンパクトシティ化

■実現したいこと

1. 自社開発エリアの再開発によるコンパクトシティ化
2. 関連事業への進出による新たな収益機会と雇用機会の創出

【新事業・新商品】



■ありたい姿

“独創性を育むチカラ”で、未来を築く新事業・新商品を開発

■実現したいこと

1. 当社の多彩な研究開発力を拡大・融合し、革新的な商品を開発
2. 産官学連携、M&Aなどあらゆる手段を駆使して社会課題を解決する新事業・新商品を創出



Ⅱ 「中期経営計画2028」

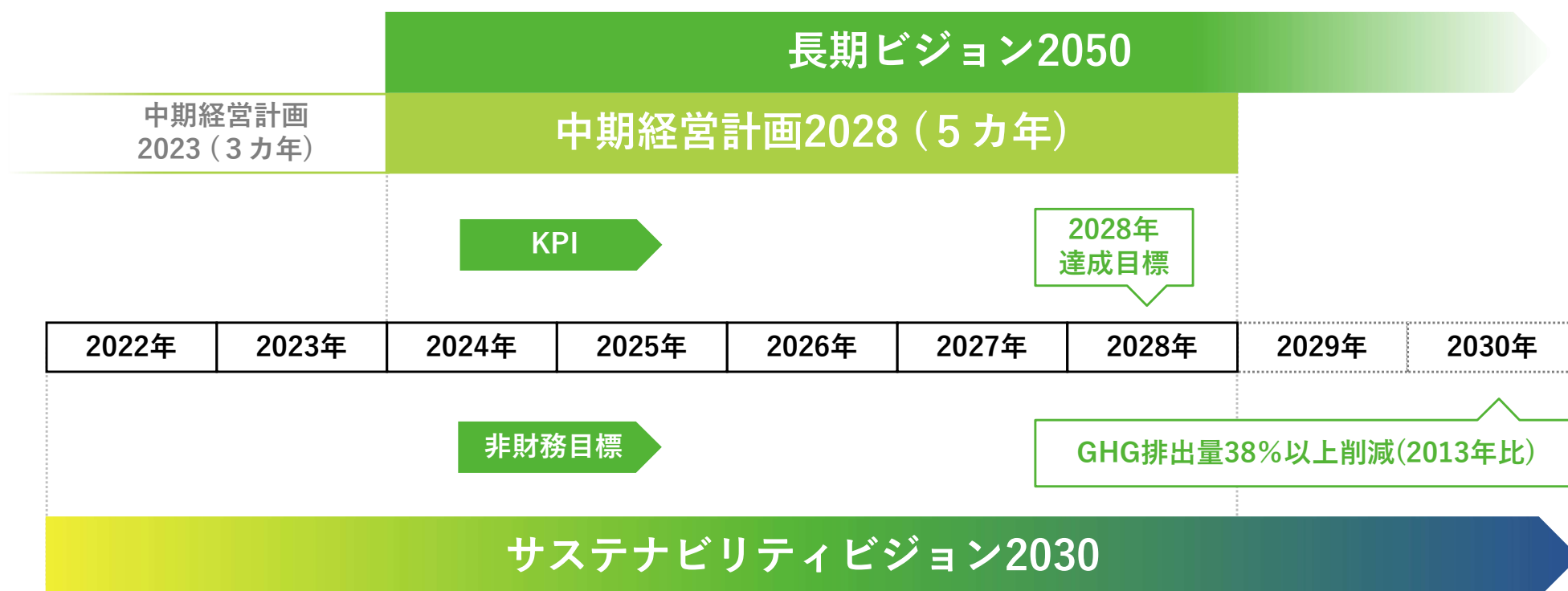
Taki Chemical Vision2050 

Ⅱ 「中期経営計画2028」

1. 概要

■ 「中期経営計画2028」のスケジュール

- ・ 「中期経営計画2028」の達成目標および推進項目は「長期ビジョン2050」からバックキャスト
- ・ 非財務目標については「サステナビリティビジョン2030」に基づき、気候変動への対応や人的資本への投資などを推進



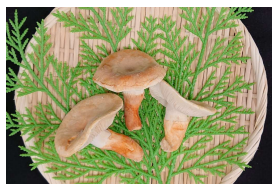
Ⅱ 「中期経営計画2028」

2. 基本方針

成長事業への積極的投資と 新事業の創出

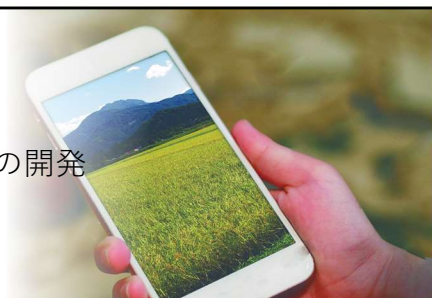
ライフサイエンス

- ・医療用材料事業の拡大
- ・コラーゲン事業の確立
- ・バカマツタケの事業化



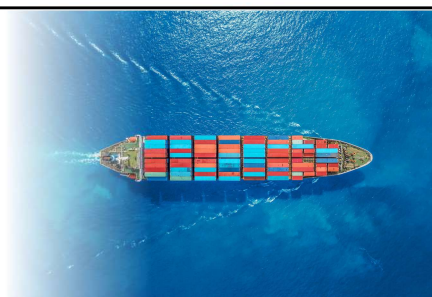
機能性材料

- ・ナノ材料の拡販
- ・技術革新による新用途、新商品の開発
- ・環境配慮型、社会課題解決型製品の新規開発



M&A、海外進出

- ・業務提携による事業拡大
- ・資本提携による多角化
- ・海外市場の開拓



既存事業の深化による収益力向上

アグリ事業の継続力強化

- ・生産・販売・在庫の最適化
- ・モーダルシフトの推進
- ・環境配慮型製品の開発
- ・アグリ関連新事業への進出



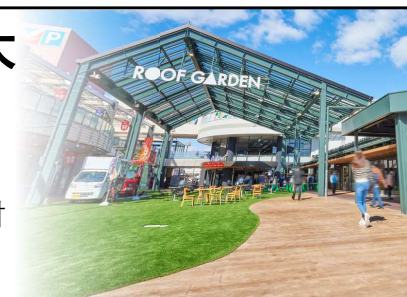
水処理事業の新展開

- ・超高塩基度PACの市場浸透
- ・新たな環境配慮型凝集剤の開発
- ・原料の安定調達とコスト削減



不動産事業領域の拡大

- ・コンパクトシティ化
- ・リノベーション事業および
フランチャイズ事業への進出検討



Ⅱ 「中期経営計画2028」



2. 基本方針

サステナビリティ・トランスフォーメーションの実践

気候変動への対応

- ・省エネルギーの推進
- ・再生可能エネルギーの導入
- ・サプライチェーンを含めた温室効果ガスの削減
- ・気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)への対応



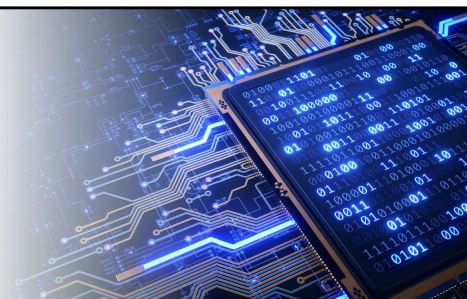
人的資本経営の推進

- ・平等な機会提供と女性活躍の推進
- ・個別キャリアパスの構築と成長促進
- ・継続的スキル開発と最新知識習得のサポート
- ・円滑なコミュニケーションとフィードバック文化の構築
- ・従業員エンゲージメントおよび職場環境の向上、健康経営の促進



DXの推進

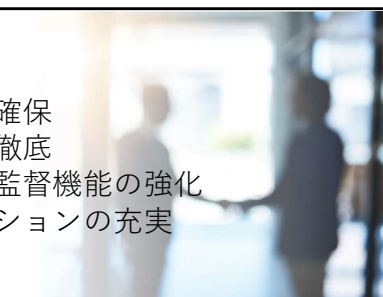
- ・RPAの活用および生成AIの導入による業務効率化
- ・ITリテラシーの向上
- ・ICTによる情報発信の多様化



GRCの推進

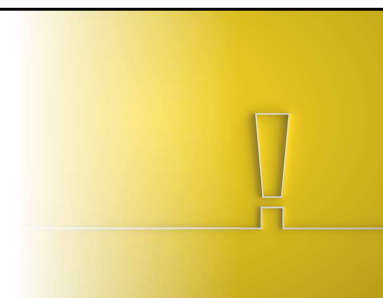
G：ガバナンス

- ・取締役会の実効性の向上と独立性の確保
- ・適時適切な透明性の高い情報開示の徹底
- ・監査等委員会との連携による監査、監督機能の強化
- ・ステークホルダーとのコミュニケーションの充実
- ・地域社会への貢献



R：リスク管理

- ・リスクマネジメント体制の強化
- ・定期的なリスクの見直しによるリスクマップの更新に基づく対応
- ・BCPに基づく事業継続性の強靱化
- ・情報セキュリティの強化



C：コンプライアンス

- ・強固なコンプライアンス体制の確立・浸透・強化
- ・内部統制システムの実効性の向上
- ・法令、規制変更への迅速な対応
- ・社内通報制度による問題の早期発見と自浄作用の強化



Ⅱ 「中期経営計画2028」

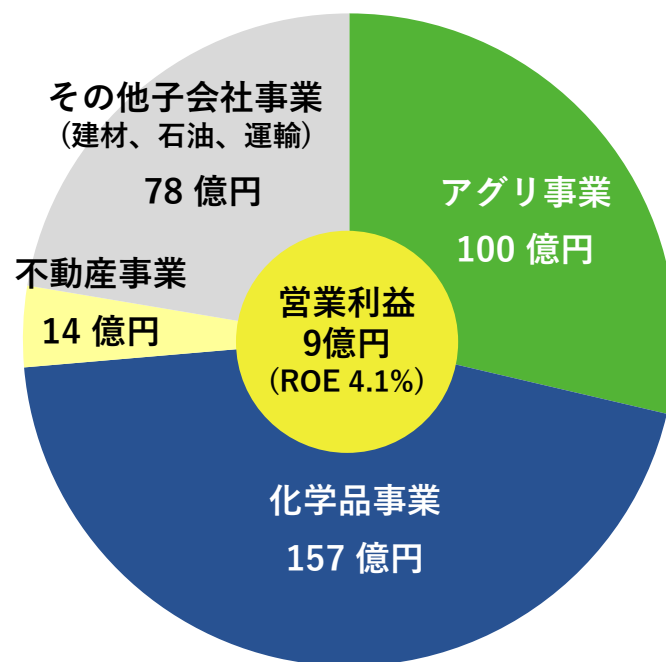
3. 「中期経営計画2028」でめざす姿

■セグメント別業績目標

達成目標 (2028年)	売上高 420億円	営業利益 30億円	ROE 6.0%以上
--------------	-----------	-----------	------------

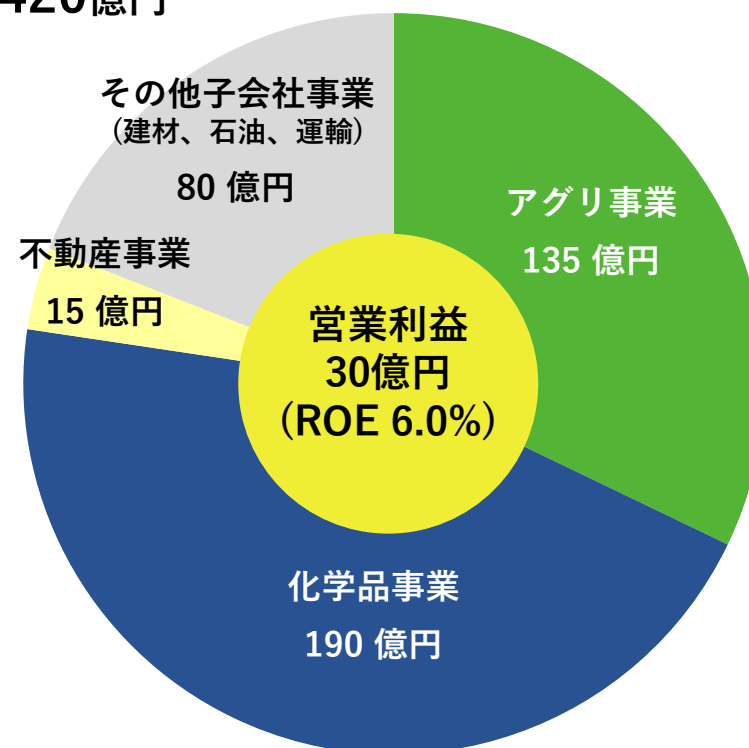
2023年実績(連結)

売上高 349億円



2028年達成目標(連結)

売上高 420億円





多木化学株式会社

本資料は当社グループについて理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としておりません。また、本資料に含まれる将来の見通しに関する内容は、現時点での仮定に基づくものであり、不確定な要素も含まれております。実際の見通し内容は、様々な要因の変化などにより、異なる場合がありますことをご了承ください。